

2017年1月29日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 7章 17～37節

説教：モーセの信仰

はじめに

日本ではどこへ行っても日本語が通じま
す。イスラエルも同じで、もともとは全員が
ヘブル語を話していました。ところが戦争に
よって海外に強制的に移住させられた人た
ちが出て来ると事情は変わります。子ども孫
の世代になると外国語であるギリシャ語し
か知らないユダヤ人が出てきました。そんな
人たちがやがてイスラエルに戻ってきます。
そうすると同じユダヤ人でありながら、ヘブ
ル語を使う人たちとギリシャ語を使う人た
ち、この二つのグループがそれぞれ固まって
住むようになります。

教会の中も同じでした。ことばの違いに
よって二つグループができます。そのことで
しばしば問題が起きました。当時、教会では
貧しいやもめの生活を支援するために、毎日
食事を届けていたのです、があるとき、ギリ
シャ語を使うユダヤ人に食事が届いていな
いという苦情が上がってきました。これでは
いけないということで早速組織の見直しを
します。食事配給部門を新たに設け、リー
ダーにステパノを立てることにしました。

すぐにステパノはギリシャ語をしゃべる
人たちが住む地域に足を運び、問題解決にあ
たります。その地域にはキリスト教に反感を
持っている人たちが沢山いました。ステパノ
に難しい質問をふっかけて追い返そうとし
ます。ところが、ステパノはことごとく明確
に答えるものですから、ますます頭に来て、
とうとう力づくでステパノを捉えさせ、裁判
にかけてしまいました。

1 ステパノが訴えられた理由

1) 建物の神殿をこわそうとしている

彼らはどんな理由でステパノを訴えたの
か。今日の箇所に入る前に確認しておきます。
二つあります。

順序は前後するのですが、一つ目は 6 章
14 節にあります。「『あのナザレ人イエスは
この聖なる所をこわし、モーセが私たちに伝
えた慣例を変えてしまう』彼が言うのを、私
たちは聞きました。」

ステパノは、聖なる所、つまり神殿をこわ
してしまえと白昼堂々人々に宣伝している
危険思想の持ち主である。これが起訴理由の
一つ目でした。

2) 神に逆らっている

起訴理由の二つ目は、6 章 13 節にありま
す。「この人は、この聖なる所と律法とに逆
らうことばを語るのをやめません。」

聖なる所と律法に逆らうことは、言葉を換
えれば神に逆らうことと同じです。もし本当
に神に逆らうようなことを語っていたのなら、
死刑は免れません。実際にステパノはこ
の後、石打ちの刑で殉教していきます。

2 モーセ

1) 「あなたの立っている所は聖なる地であ
る」

これに対し、ステパノがどのように弁明し
たかが7章に書かれています。今日の箇所の
17 節に、「神がアブラハムにお立てになった

約束のときが近づくに従って」とあります。これは何のことか、ここだけではわかりませんが、前のほうに戻って、同じ6節で神がアブラハムにあらかじめ語っていたことを指します。「アブラハム。あなたの子孫は、やがて外国に移り住むことになり、そこで奴隷状態になっていく。」それが前回見たことでした。

今日はその続きを見ていきます。

アブラハムはそのことを自分の目で見ることなく墓に葬られますが、およそ四百年経ったとき、神が語ったとおりのことが起きました。それが今日の箇所になります。エジプトの中でイスラエル人が増え、力をつけてきたのをよく思わないパロは、イスラエル人に対して男の子が生まれたら全員ナイル川に投げ込め、という命令を出します。ちょうどそのときモーセが生まれました。両親は三ヶ月の間、隠れてモーセを育てようとするのですがもう隠すことができないと観念し、小さな船に乗せてナイル川に流してしまいます。そこへパロの娘が通りかかり、モーセを拾い上げ、エジプト人として育てられ、貴族として恵まれた生活をするようになります。そのモーセが四十歳になったとき、たまたまイスラエル人が虐待されているのを見かねて、エジプト人を殺してしまったことから、彼は犯罪者となり追われる身となってしまいます。いつぼう、イスラエル人からは厳しいことばで拒絶され、結局エジプトにいらなくなり、遠く離れたミデヤンの地に逃亡し、そこで羊飼いと暮らすことになりました。

大きな転機が訪れたのは八十歳のときです。彼は、「モーセ、モーセ」という神からの呼びかけを聞き、近寄ってみると神はこう

語るのです。「あなたの足のくつを脱ぎなさい。あなたの立っている所は聖なる地である。」モーセが立っていたのは、いつも羊を追って歩いていた荒野です。そこが聖なる所であるとはまったく考えたことなどありません。それが突然、「ここは聖なる地である」と言われてしまいました。

これは何を意味するのでしょうか。ステパノは、聖なる所をこわそうとしているという理由で訴えられていました。訴えた者たちは、聖なる所とは建物の神殿のことだと信じて疑いません。

しかし、神がモーセに語ったことばかり何がわかりますか。聖なる所とは、神が御臨在する場所のことです。だからある日突然、昨日まで何もなかった荒野が聖なる地になることもある。神殿と名のついた立派な建物だからそこが自動的に聖なる所になるわけではありません。

ステパノはそのことを言おうとしています。

2) 「だれがあなたを支配者や裁判官にしたのか」

続いて、神がモーセに語っている所を見ます。34節です。「わたしは、確かにエジプトにいるわたしの民の苦難を見、そのうめき声を聞いたので、彼らを救い出すために下って来た。さあ、行きなさい。わたしはあなたをエジプトに遣わそう。」

このことばの意味についてステパノは、35節で説明しています。「『だれがあなたを支配者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は(中略)お遣わしになったのです。」

モーセは、イスラエル人を助けたとき、み

なは自分のことを理解してくれるだろうと信じて疑いませんでした。自分は良いことをしたとさえ思っていたでしょう。ところが翌日行ってみると、「だれがあなたを、私たちの支配者や裁判官にしたのか」と厳しい口調で言われ、非常なショックを受けます。ミデヤンの地に逃れてからも、ずっとこのことばが心に突き刺さったままでした。二度と思い出したくない忌まわしい記憶だったのです。ところが、ずっと封じ込めていたことばを、思いがけなく神の口から聞くことになってしまいます。イスラエルの民に拒まれた者を、神は改めて解放者として遣わす。これが神のご計画だと言うのです。

これは何を意味するでしょう。ステパノは、神に逆らっているという理由で訴えられました。ステパノを訴えた者たちは、自分たちは神に逆らってはいない。いや、神に従順にしたがっている者だと信じています。

しかし神がモーセに語ったことばから何がわかるか。神に逆らっていたのはいったい誰だったのか。神から遣わされたモーセに逆らったのはイスラエル人でした。あれは自分たちのずっと遠い先祖がやったことで自分は関係ない、と言い逃れするのでしょうか。いいえ。聖書は甘くはありません。アダムが犯した罪の責任を私たちに問いかけるほどの方です。自分は神に従っているので関係ありません、というような言い逃れは通用しません。私たちは全員、神に逆らってきたのです。

ステパノはそのことを言おうとしています。

3 イエス・キリスト

1) 解放者を遣わす

律法によれば神に逆らう者は殺されなければなりません。では、モーセに逆らったイスラエルの民は殺されたのか。さばかれたのか。ステパノはなんと言ったか。「人々が拒んだモーセを、支配者また解放者としてお遣わしになったのです。」

エジプトにいたイスラエル人たちは、モーセに、「おまえは支配者か裁判官になろうとしているのか」と詰め寄りました。しかし神はモーセを裁判官として遣わしたのではない。解放者としてお遣わしになりました。

そのモーセがこのように預言します。37節。「神はあなたがたのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる。」

申命記 18 章の中でモーセが語ったことばです。イスラエルの人々は、このみことばから、神は預言者を遣わしてくださると堅く信じていたくらいです。それほど大切なみことばだったのです。

2) ひとりの預言者を立てる

いったい「私のようなひとりの預言者」とはだれのことか。何か特徴があるのでしょうか。あります。モーセは二つ挙げています。一つ目。「あなたがたの兄弟たちの中から、それは出る。」まったく知らない所から突然来るのではない。あなたがたと同じ姿をした兄弟として出て来る。イエスはどこから出てきましたか。ナザレ人イエスと呼ばれました。ナザレの田舎者です。ヨセフとマリヤの間に生まれたひとりの人としてこの方は来られました。

そして二つ目。「私のようなひとりの預言者をお立てになる。」モーセのようなひとりの預言者と言っています。モーセとどこか同

じなのでしょう。いま見たとおりです。モーセは最初から信頼されたのか。歓迎されたのか。いいえ。彼は生まれた最初の日から歓迎されません。川に投げ込まれました。大人になってからは、同胞からもエジプト人からも敵だと思われた。イエスも同じです。生まれたときはヘロデの手で殺されそうになり、エジプトに一家で逃げなければならないほどでした。大人になり、宣教活動を始めるとすぐに大祭司や律法学者たちがイエスを敵とみなし、最期は十字架に追いやっていききました。

ステパノが言おうとしていることはこのことです。あなたがたはモーセにしたことと同じことを、イエス・キリストにしたのだ。そうやって神に逆らったのだ。

3) 神に逆らう者のために

私たちはどうでしょうか。私たちは神に従っているのでしょうか。それとも神に逆らっているのでしょうか。もちろん、神に従いたいと誰もが願うでしょう。努力したら神に従うことができるのか。では、神に従っていますと、自信をもって答えられる人は果たしているのでしょうか。神に従うことができない。これが私たちの現実です。ここに座っている皆さん全員が、私も含めて神に逆らっていることとなります。

では、神に逆らう者を神はさばくのでしょうか。ステパノはなんと言ったか。神に逆らう者のために、神は解放者を遣わす。解放者とは誰のことか。私たちの主であるイエス・キリストです。

であれば、私たちができることは一つだけです。「私は、神から遣わされた方を十字架につけた者である。」もしそのように告白す

るなら、神はこういわれます。「よく言ってくれた。あなたのためにわたしはイエス・キリストをあなたのところに遣わし、あなたを救い出す。」

その方が今、私たちの神となってここに御臨在してくださいます。聖なる所に私たちが招かれていることに感謝します。